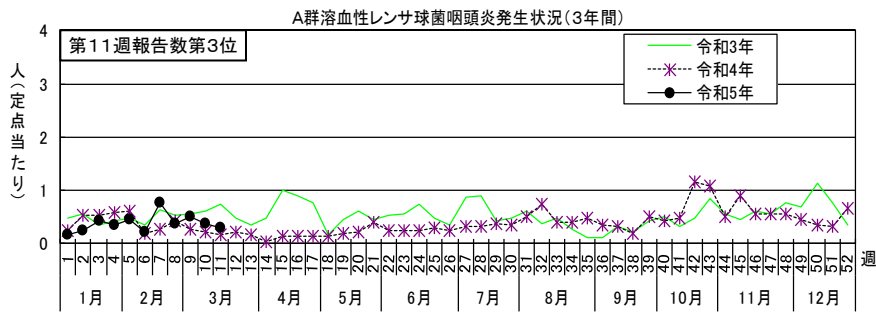
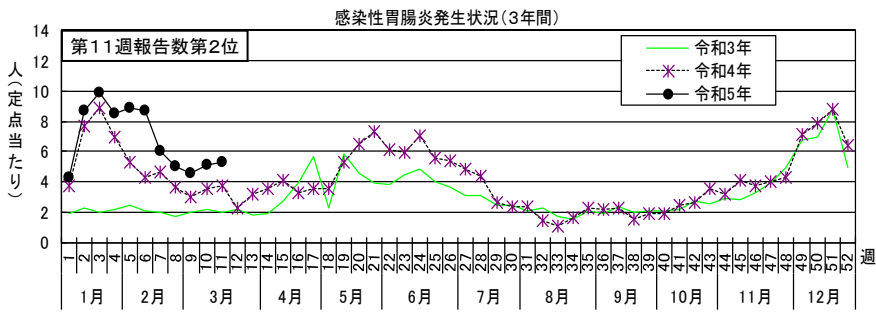
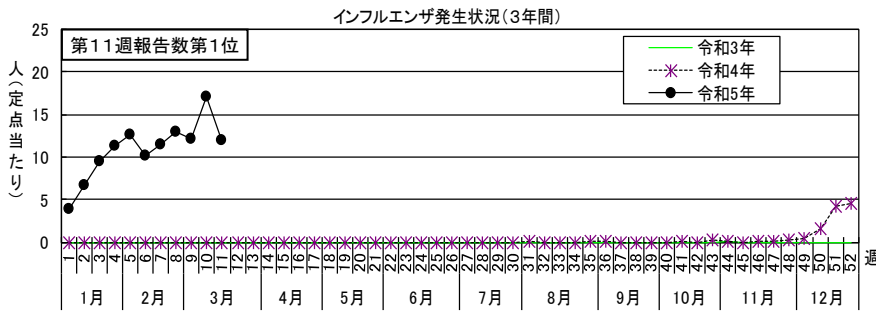


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年3月13日（月）～令和5年3月19日（日）〔令和5年第11週〕の感染症発生状況

第11週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.03人と前週（17.05人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.27人と前週（5.08人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.30人と前週（0.38人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

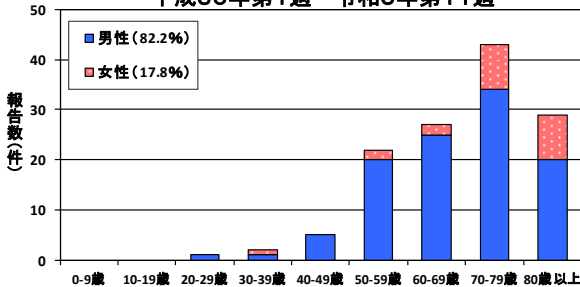


こんな病気にも注意しましょう！～レジオネラ症～

レジオネラ症は、水中や土壌中など自然界に広く生息するレジオネラ属菌を原因とする細菌感染症です。主な病型として、重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と、一過性で自然に改善するポンティアック熱が知られています。報告の大部分を占めるレジオネラ肺炎は、38℃以上の高熱、咳や倦怠感等に加え、意識障害等の中枢神経症状を伴い重症化することもあります。

川崎市における過去5年間のレジオネラ症の発生状況は、男性が82.2%と多く、特に50歳代以上が報告の大部分を占めています。高齢者は肺炎を起こす危険性が通常より高く、急速に症状が進行し、命にかかわることもあります。適切なタイミングでの抗菌薬の使用が治療のポイントとなりますので、早期診断のためにも、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市におけるレジオネラ症性別・年齢階級別発生状況
—平成30年第1週～令和5年第11週—



レジオネラ症とは？

【主な症状】

- レジオネラ肺炎
発熱、咳、呼吸困難、意識障害、下痢等
- ポンティアック熱（肺炎にならない自然治癒型）
突然の発熱、インフルエンザ様症状等

【潜伏期間】

2～10日間

【感染経路】

レジオネラ属菌に汚染されたエアロソル（空気中に浮遊している粒子）を吸引することにより感染
 ※人から人に感染することはありません。
 ※浴槽のお湯や加湿器の水等は新しいものを使用し、清潔を保ちましょう。また、高圧洗浄等、エアロソルが発生する作業ではマスクを着用しましょう。